

報告

2019 年度九州支部大会報告

原 隆幸 (九州支部長) A・川崎典子 (大会実行委員長) B



2019年8月3日(土)に宮崎大学(木花キャンパス)にて、グローバル人材育成教育学会第6回九州支部大会が開催された。天気にも恵まれ、九州だけでなく、北海道や関東からの参加に加えて、台湾から学生の参加もあり、31名の出席があった。今回の大会テーマは「地域から世界を視野に：地方大学のグローバル人材育成の実例検証」であった。

12:40からの開始式は宮崎大学のMichael Schauerte(マイケル・シャワティエ)先生の司会のもと水光正仁先生(宮崎大学 副学長・研究担当理事)による会場校挨拶から始まった。その後、引き続き水光正仁先生(宮崎大学 副学長・研究担当理事)による「世界を視野に地域から始めよう 私の研究人生の紹介」と題する45分間の基調講演が行われた。これまでの人生で苦労されたこと、先生ご自身の研究、研究成果

を踏まえた宮崎大学の地域貢献のお話など、文系の参加者にもわかりやすく、ユーモアを交えてお話をうかがうことができた。

続いて、初の試みである「私を変えた！海外での様々な活動発表」と題するパネルトークが開催された。明石良先生(宮崎大学 副学長・機能強化推進担当西日本大学など)をコーディネーターに迎え、奈良場悠香(宮崎大学 医学部 看護学科2年)、山田誠士(宮崎大学 地域資源創成学部 地域人材コース4年)、堤優太(宮崎大学 農学部 森林緑地環境科学科4年)の3名のパネリストに留学経験を話してもらった。その後、明石先生による質疑応答と参加者からの議論が行われた。

その後、休憩に続き、一般発表と学生発表が行われた。今回はメイン会場から移動し、別の2会場で研究発表を行ない、一般発表は七本、学生発表は一本あった。会場1では、一般発表が四本行われた。

まず、山田直子先生(佐賀大学)により「正課外活動

A: 鹿児島大学、B: 宮崎大学

を包含する異文化間教育の試み：佐賀大学の事例を中心に」と題する発表がなされた。佐賀大学グローバルリーダーズ (GL) は学生・教員・職員の協働による国際交流の取り組みで、その軸となる活動は「ランゲージラウンジ」である。国内学生と留学生の相互交流目的としており、教職員による GL メンバーへのサポートを行いながら運営している。次に、小野博先生 (西九州大学)、吉村賢治先生 (福岡大学)、乙武北斗先生 (福岡大学)、青柳達也先生 (佐賀女子短期大学) により「英語力を超える語彙を表示する多読アシストシステムの開発」と題する発表がなされた。続けて佐々木有紀先生 (福岡大学)、青柳達也先生 (佐賀女子短期大学)、園田ニコル先生 (西九州大学)、小野博先生 (西九州大学) により「多読アシストシステムの教材作成方法」と題する発表がなされた。この2つの発表は関連しており、小野先生他の発表では、グローバル人材の育成や仕事に使える英語力を身につけるために、多読と語彙学習の重要性を述べた。そのため、学習意欲を保持し、多読学習の効率を上げ、語彙学習にもなることを目的に学習者に英語力を超える英語語彙の日本語訳を表示するシステム開発の重要性を説いた。具体的にシステムの構成、個別辞書の作成と初期値の確定、語彙アシストシステムの動作手順、教材以外の英文での利用などについて説明がなされた。続いて、佐々木先生他の発表では、多読アシストシステムでの教材作成、多読アシストシステムの教材利用の可能性などについて説明がなされ、また、今後の課題も述べられた。最後に、内田富男先生 (明星大学) により「グローバル時代における離島の教育課題：喜界島の事例」と題する発表がなされた。鹿児島県大島郡喜界島を研究対象として取り上げ、喜界町教育行政の重点施策、中高一貫教育の実情と課題、英語教育等の取り組みなど考察することにより、離島の教育問題、さらに島国日本が抱える問題を浮き彫りにした。会場2では、一

般発表三本と学生発表が一本行われた。一般発表として、高松侑矢先生 (九州共立大学) により「グローバル対応力養成の考察 (楽天の「二重疎外者」従業員をてがかりに)」と題する発表がなされた。世界中の多様な人材を雇用するグローバル企業の楽天を取り上げ、日本語も英語も母語としない従業員の実態からグローバル対応力養成について問題提議がなされた。次に、Amy Hombu 先生により「English Education for Regional-community Globalization and Cultivating Global Human Resources」と題する発表がなされた。宮崎大学地域資源創成学部における English Camp の取り組みでは、留学生との英語交流のみならず、学部の特徴を生かして宮崎市綾町の活性化に関する提案を作り上げていくという取り組みがなされている。次に、川崎典子先生により「課外活動として英語学習に取り組む理系学生の傾向から見えるグローバル教育支援に関する一考察」と題する発表がなされた。英語を敬遠しがちな地方大学工学部では稀有な課外英語学習者に焦点を当てた動機や態度の調査からグローバル教育支援に対する問題提起がなされた。最後に学生発表として、松原大修さん (名城大学) により「学生主体の学びを中心にしたグローバル人材への試み～少人数講義のメリットと課題点」と題する発表がなされた。名城大学における少人数制による英語授業の実践を受講する学生の視点から分析し、成果と課題について考察した。

大会終了後の情報交換会には 21 名が参加し、湖畔の花火大会を楽しみながら、活発な意見交換、情報交換が行われた。また、勝又会長の提案により、九州支部の会員がどのような研究を行っているのかをお互いに知る機会も得た。

受付日 2019 年 8 月 27 日、受理日 2019 年 9 月 14 日